

令和4年度(2022年度)第3回豊中市社会教育委員会議 議事概要

- 日時：令和5年(2023年)3月23日(木)10時～11時30分
- 会場：豊中市役所第一庁舎2階会議室
- 出席者：秋山、有元、井川、佐藤、寺嶋、中川、濱元(50音順)
- 傍聴者：なし
- 事務局：事務局長小野、中央公民館長 弘中、読書振興課主幹 西口、学び育ち支援課 主幹 津田、副主幹 金井、社会教育課長 大澤、主幹兼郷土資料館長 清水、課長補佐 荒井、青少年交流文化館いぶき館長 久住、副主幹 島津、主査 田井

【会議次第】

1. 開会
2. 案件
 - (1) 令和5年度(2023年度)予算について
 - ①教育予算の概要 -社会教育費主要施策抜粋-
 - ②社会教育関係団体補助金の交付
 - (2) 豊中市の社会教育のあり方の検討について
3. 閉会

【資料】

次第

別紙1：社会教育委員名簿

資料1-1：令和5年度(2023年度)教育予算の概要 -社会教育費主要施策抜粋-

資料1-2：令和5年度(2023年度)社会教育関係団体補助金の交付

資料2：豊中市の社会教育のあり方の検討について(案)

資料3：豊中市の社会教育のあり方の検討について【概要版】(案)

当日配布資料：豊中市の社会教育のあり方の検討についてのヒアリング個票

議事概要

1. 開 会

2. 案 件

(1) 令和5年度(2023年度)予算について

事務局より、資料1-1・資料1-2について説明。

議長：教育予算の中にある図書館の「サービスポイント設置」とはどのようなサービスが提供されるのか。また、「視覚障害者が使用するプレクストーク」とはどういったものか。

事務局（読書振興課）：サービスポイントでは、主に図書の予約受取・返却を行う。プレクストークとは録音図書のようなもので、音声ボランティアが音声化したCDを入れると再生されるもの。

委員：各団体の会員数が減少している現状があるが、どのような支援を行っているのか。特に運営部分についてサポートはしているのか。

事務局（社会教育課）：社会教育課では、PTA 連合協議会や人権教育推進委員協議会などの定例的な会等に職員が参加し、必要に応じて情報共有などを行っている。

事務局（読書振興課）：豊中こども文庫連絡会の会議に参加し、情報共有をしている。

事務局（いぶき）：ボーイスカウト・ガールスカウト・市こ連の支援をしている。毎年5月のGWにあるふれあい緑地フェスティバルに積極的に参加を促し、その中でさまざまなイベントを企画して来場者への魅力発信の場としている。

委員：中央公民館のITCについて。公民館や公民分館の認知度が低い。HPを作っている公民分館もあるが、なかなか広がっていない現状。発信力を進めていかないことには今後も活動が広がっていかないと感じるが、具体的な対策はあるのか。

事務局（公民館）：分館長からもよく「新しく転入してきた人に「公民分館って何ですか？」と聞かれるという話をよく聞く。以前と比べたら少しずつHPを作る公民分館も増えており、市HPからもリンクを貼って飛べるようにしている。公民分館協議会の会長も市長との対談の中で「公民分館はもっと全市的に情報発信していきたい」と話している。効果がすぐ出るのは難しいが、今年度の活動方針の中でも公民分館の発信力を上げていこう」という努力目標は引き続き挙げている。必要に応じて情報共有もしながら、今後も支援していく。

議長：公民分館は学校教育と社会教育が融合する重要な場所。今後も考えていかなければならないし、私も勉強していきたい。

委員：学び育ち支援課の「放課後等の児童の居場所づくり事業」は、学校開放や校庭開放のことか。

事務局（学び育ち支援課）：放課後等の児童の居場所づくり事業は、現在10校の小学校に見守り員（かつてはボランティアやシルバー人材センターが担っていたが、現在では専門の警備会社に委託している）を配置して、

子ども達が放課後等に自由に安心して遊べるという事業で、体育施設開放事業とは異なる。

委員：附属池田小学校の事件があるまではどこの学校も開放していたが、長い間やっていたいなかった。数年前から何校か開放するようになってるように感じた。大塚公園では多くの子ども達が遊んでいて、いつか事故でも起こるのではないかと思うほど。

事務局（学び育ち支援課）：令和5年度は15校追加して計25校に拡充する予定。

委員：これからも進めていってほしい。

委員：学び育ち支援課の事業について。共働き家庭が増えたことで、行政としての支援がもっと必要。放課後の時間延長も含めて、豊中市の特色ある支援を。若い世帯を豊中市に呼び込めるような支援施策を進めていただきたい。また、学校支援コーディネーターの支援も、もっと見える形でしっかりと進めていただきたい。研修等、学校支援コーディネーターが力をつけていただくための事業を。

事務局（学び育ち支援課）：就労世帯の支援は大切。放課後等の児童の居場所づくり事業も含めて、今後も前向きに進めていきたい。また、学校支援コーディネーターの配置や研修なども重要であると認識している。

議長：地域の教育活動は「人づくり」がテーマだと、あり方検討の中でも述べている。絵に描いた餅にならないように、予算関係含めてしっかり取り組んでいただきたい。

（2）豊中市の社会教育のあり方の検討について

事務局より、資料2・資料3・当日配布資料について説明。

議長：社会教育主事の配置は大切。補助金の話の中でも、社会教育団体の支援のため相談対応や意見交換しているとあったが、そういった視点で地域の団体と交流できる職員の配置が必要。一定の研修を受けた職員を配置することで地域の活性化につながる。本文については、P1「1. 社会教育とは」の二文目「さらに～」以降の文章が長いので、区切ってはどうか。また、【概要版】の「基本コンセプト」の下に「豊中市の社会教育＝地域づくりの根幹を支える人材育成」とあるが、教育を人材育成と言ってしまうのは表現としてどうなのか。人材育成と言うと会社の目的に沿った都合の良い人材を育成するような狭いイメージに感じられてしまう印象があると感じる。キャッチフレーズについては、事務局より2案出ているので多数決を取りたい。良いと思う方の案に挙手を。

〈多数決の結果〉

案1 「わくわく学びつながり育つまち豊中」：7 票

案2 「人づくり地域づくり～つながり、学び、和を広げる～」：0 票

議長：では、多数決の結果、案1 「わくわく学びつながり育つまち豊中」に決定する。つながりながら参加することが社会教育につながっていくと表している。

委員：P5 のイメージ図の上部に「4. めざすべき方向性実現のための～」という文章が入っているが、唐突に感じるので修正を。また、この資料は印刷物だけでなくデジタル媒体でもしっかりと見やすいものにしてほしい。

委員：P6 「○社会教育課の役割」の中で「社会教育主事を配置し、社会教育士の育成支援…」とあるが、一般の人にそれぞれどのような使命があるのか分からないと思う。注釈を入れるなど簡単な説明を。

事務局（社会教育課）：了解。

議長：地域づくりは大切で、特に子供に関わる大人の人数が増えることはとても大事。不登校や自殺などショッキングなニュースが増える中で、社会教育全体の充実と、子どもに関わる大人とそれらが広がり、つながっていくことは重要。「豊中市の社会教育のあり方」検討資料については、概ね意見は出揃ったと思うので、最終的な修正は議長一任としてよろしいか。

委員（全員）：了解。

3. 閉 会

事務局（事務局長）：今年度は「豊中市の社会教育のあり方」検討について、非常に多くの意見をいただき感謝している。コロナ以降、さまざまな社会教育活動が止まってしまっていて、このままではよくない、何か考えなければと動きながら試行錯誤しながら結論を出してきた状況。ヒアリングでは紙に書ききれないほどそれぞれの立場からのご意見をいただいた。教育委員会としても、その思いをしっかりと伝えていきたい。人の育成は永遠のテーマ。社会教育主事は、学び育ち支援課だけでなく、社会教育課にこそ配置しなければいけないと思っている。こういう部局に配属になった職員は勉強して資格を取得し、地域に出ていくという仕組みを作りたい。行政は情報発信が得意でない部分もあるが、最近はTwitterも活用して積極的に情報発信をしている。今後も皆さんの意見を反映しながら、少しでも良い豊中市にしていきたい。

以上